

平成27年度（第2回） 「千葉県安全性向上プロジェクト委員会」
議事要旨

■ 開催日：平成28年3月24日（木） 10:00～12:20

■ 場 所：一般社団法人道路管理センター 千葉支部 会議室

■出席者

千葉工業大学 工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
千葉県警察本部 交通総務課	清水 貞（代理出席）
千葉県警察本部 交通規制課	並木 友彦（代理出席）
公益財団法人千葉県交通安全協会 事業管理課長	松野 勉
一般社団法人千葉県トラック協会	高安 茂
一般社団法人千葉県安全運転管理協会	黒瀬 明
株式会社千葉日报社	松本 祥彦
千葉県県土整備部道路環境課	實川 常博
千葉県環境生活部生活安全課	木村小絵子（代理出席）
千葉市建設局土木部	伊藤 秀訓（代理出席）
国土交通省関東地方整備局 首都国道事務所	中谷 文治（代理出席）
国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所	松浦 利之

■議事

(1) 規約の改正

事務局より規約の変更について説明し、委員の変更について承認を得られた。

(2) 議事

1) これまでの取組みについて

- 千葉県の交通事故死者数については絶対数を見てしまうと全国3位である。しかし人口当たりの死亡者数は全国39位である。また走行台キロでは全国で中位程度の順位であった。
- 白井交差点の事例では、事故の発生している流入側の停止線を前に出すことにより、視認性を向上させ事故を抑止すると考えられる。今回の対策効果を監視し今後フィードバックして欲しい。

2) 対策実施区間のフォローアップ結果

- 千葉県ではポアソン判定を先進的に使用していることは評価できる。
また、対策の効果を分かりやすく整理・表現していることが良い。
- 左折専用車線部と直進車線部の間に交通島を作るなどして歩行者の横断距離を短くすることが欧米では取り組まれている。また、千代田区の駿河台下交差点などにおいて採用されている。今後、県内でも採用することがあれば、各種交通量と歩行者数のバランスを踏まえつつ、よく協議して左折の事故対策の採用を検討してほしい。

3) 事故危険区間の更新について

- 交通三悪のうち無免許、飲酒運転を伴う事故を対策が必要な事故から除去することについては、ドライバーの資質の問題であり、工学的でないので除去する方向が良い。しかし、速度超過については一概に除去してしまうのは危険である。
- 偶発事故を削除することにより、注力すべき箇所に事業を向けて実施してゆくとともに、偶発箇所のモニターを行い必要に応じてフォローすることが大事である。偶発事故の扱いや卒業ルールの改定は委員会として承認する。
- 今後のETC2.0データへの期待として、事故データを補完してアンケートの位置づけの部分をサポートする要素になってくる。しかし、現状では急ブレーキの集計にムラがある。ド

ライバーによるクセの消去など未成熟な部分がある。

- ETC2.0 データは現時点でも、「要因分析・対策の立案段階」、「実施した対策の評価段階」で有用である。また、経路分析により生活道路が抜け道等に利用されている状況の分析ではおおいに活用していきたい。
- ETC2.0 だけではなくサンプリング集計ではどのような情報でも偏りがある。また、実際の交通量とデータ母数の推定についても課題がある。
そこで重要なのは、これらのデータを100%正としないで活用してみることである。

4) 生活道路の取り組み

- 生活道路の多くが交通量調査のない区間である。通行経路やその区間をどのくらい車両がどのような速度で走っているか等、ある程度の正規化した上の情報が手に入ると、その情報で分析や評価ができるようになる。つまり見えなかった部分や情報が見えるようになりより正確な分析が出来るようになる。

5) 道路安全監査(試行)状況

- 事故の発生が少ない区間について、事故対策を実施して、一見安全になったように見えると事故が発生してしまう。潜在的危険箇所を対象として道路安全監査を実施しているが、今後結果を出す上では、事故データに基づいた箇所選定とした方が良いと思う。
- 交差点が良くなることによって、事故への恐怖心が減少する。その結果事故が発生することも考えられる。
- 今後は、これまでの交差点を中心とした検討から単路で発生する事故への対応が期待される。ある程度の範囲で対策して、ある場所に集約し安全に横断できるようにする等の区間対策への展開が期待される。